

帰国研修員の活動調査のため、中米を訪問しました

2012年12月に帰国研修員の活動調査のため、エルサルバドルとニカラグアの2カ国、8名の野菜栽培技術コースの帰国研修員を訪ねました。どの研修員も意欲的に活動しており、本邦研修で学んだことを各々の創意工夫で活用している様子が見られました。

我社では2001年よりJICA 筑波が実施する研修業務を受託しており、研修業務は弊社のひとつの重要な事業として捉えています。しかしながら帰国後の研修員の活躍というのは国内に坐しているだけではなかなか思ったように知ることができません。そこでこれまでも我社では2005年にはボツワナ、2010年にはマラウイとザンビアの帰国研修員の活動調査を独自に実施し、その結果を反映させて、研修業務の質的向上に取り組んできました。

今回の中米調査でもまた帰国研修員のたくさんの活躍といくつかの改善点が見えてきました。それらについてはまた後日にAAINewsで報告します。



2011年の研修員ルイス氏（エルサルバドル）：トマトの接木技術の導入に挑む。



2011年の研修員セサール氏（エルサルバドル）：JICAのプロジェクトC/Pとして活躍



2012年の研修員ロベルト氏（右；エルサルバドル）：アクションプラン実施のための調査を開始



ニカラグアの大学からは3名の研修員が本邦研修に参加。帰国後は協力して、試験研究をしていた。



2006年の研修員レオネル氏（ニカラグア）はいつも日本の話をするので家族も日本が大好き



中米におけるエルサルバドルとニカラグアの地理

